

無所属 西東京市議会議員

森てるおの なんでもりポート 第21号



2004年7月発行（隔月発行） 定期購読料：年間1,000円（送料含む）
編集：森てるお事務所 発行：森てるおと市民の目

講演会「これからの市民自治と市長の役割」にお越しください！

みなさんは、「市長に変わってもらいたい」とか「市長を代えたい」とか思ったことはありませんか？「変わらないし、代えたっておんなじだよ。」という人がたくさんいます。そんなことはありません。

また、いろんな人から「何とかならないの？」といわれる事もしばしばあります。なんとかする資格と力があるのは市民ひとりひとりです。しかし「私には何にも出来ません」ではお話になりませんので、先進自治体の市長のお話を伺う講演会を企画しました。お話を聞いた上で、主権者としての市民のみなさんに、どうすべきかを考えていただきたいのです

市長という行政のトップにどんなことが出来るのか、「先進的」といわれる市長がどんな考えを持っているのかを、実際に見て、聞いていただきたいと思います。福嶋浩彦我孫子市長が実際にやっていること、その考えの根本、そしてその効果・影響を語っていただければ、きっと市民のみなさんの中の「市長」像が違ったものに見えてくるのではないかと確信しています。

福嶋市長の下では「おねだり政治、横車政治にさよなら」(15号)は実行段階です。「20号」で触れたように、議会と適切な距離を取ることで、結果的に議会活性化にも貢献しているようです。補助金の白紙からの見直しは2期目に入り、「口利き防止」規則は1年を過ぎました。4月に施行された、常設型の「市民投票条例」の報告もさせていただきます。「納得できる行政」を市民の力で作り出していく、その第一歩としてこの講演会に、是非とも大勢のみなさんのご参加をお願いします。

住基ネット、訴訟をしましょう

行政が本人に断りもなく、かってに番号を付けたことに怒りを感じている方、自分の情報が漏れるのではないかと心配している方、そして住基ネットに疑問をお持ちの市民のみなさん。1,500円の負担で、「住基ネット訴訟・西東京の会」が進める裁判に参加しませんか。

形式的には国家賠償法に基づいて慰謝料10万円を要求する損害賠償請求訴訟で、被告は西東京市。他に方法がないんです。しかし、目的はこの裁判を通じて住基ネットの問題性を明らかにし、住基ネットを止めることです。お荷物の住基ネットを止めることは「大歓迎」が行政自身の本音です。「市長も喜ぶ住基ネット訴訟」です。住基ネットが止まっても「訴えの利益はない」として賠償金はもらえないかもしれませんが、自分の税金で賠償金をもらっても、ねッ！

8月5日の住基ネット第一次稼働の日に提訴します。賛同、参加はお早めに。

36m道路調布保谷線の事業差し止め裁判にもご参加を！

36m道路が乱暴な姿をあらわにし始め、しゃにむに突進する東京都と西東京市に対して、怒りとあきらめの気持ちが生まれてきていることと思います。そんな中、「この道路は止めなければ」「止められる」という気持ちを持って、市民が都と市を追求しています。「調布保谷線36m公害道路ストップの会」が、予測される被害に対して、被害が出てからではなく、出る前に公害道路を止めるため、裁判をそのひとつの手段として行なうことを決めました。

被害が出る前の「予防裁判」ですから費用負担も大変さも被害発生後とは比べ物にならないほど少なくてすみます。それでも、原告当事者になるには裁判費用として1万5千円くらい、サポート会費1万円がかかります。決して安い金額ではありませんが、行政の暴走を止める手立てのひとつとして、この裁判に多くの方の参加をお願いします。支援して下さる方は1万円か2千円のサポート会員になってください。弁護士費用は外部からカンパなどで集める予定になっています。

東大農場は西東京市に必要

連日、36度とか37度の日が続いていた日の深夜、所用でミニバイクに乗って市内を一巡することになりました。深夜とはいっても熱帯夜です。自宅から出発し、ひばりが丘駅を過ぎるころまでは素肌に当たる風は温風、信号などで止まったとたんに汗が吹き出すような状態でした。

ひばりが丘団地横では、風は少し心地よく感じられるようになっていました。風を切る爽快感はバイクの魅力のひとつなのでしょうが、風が生暖かくても、冷たすぎても気持ちよくありません。「繁華街と住宅地とはこれくらいの温度差があるものなんだ！何度くらいの違いかな？」などと考えながら団地横の通りを六角地蔵方面に向かっていました。

左手奥に東大農学部の演習林が一望できる農地脇まで来たところで、いきなり氷の壁を突き抜けてしまったような冷気に襲われました。その中を通過していた時間は10秒、15秒くらいのものでした。ところが、六角地蔵の信号に止まっても寒さの震えが止まりません。信号が変わったあともしばらくその場所に止まっていて、やっと寒気が収まりました。

その後、それほどの冷気を感じる場所はありませんでしたが、向台町の園芸林の脇などでは空気の冷たさを実感しました。

木を切り、地面を石で固めてしまうことによって、熱が地中に吸収されなくなってしまっているのでしょうか。地球温暖化というよりもヒートアイランド現象で、西東京市も動物としての人間が「棲息」しづらい場所になってきているようです。この現実をどうしましょうか？自治体に出ることがあるはずで、屋上緑化ぐらいではねえ～。

私は森と土の地面を持った東大農場を丸ごと残す必要を痛感しました。

森てるおの活動記録（2004年5～6月）

主なものを掲載しています。

- | | | | |
|------|---------------|------|--------------|
| 5月4日 | ストップの会現地視察 | 6月1日 | 議会運営委員会 |
| 7日 | 東大遺伝子組換栽培説明会 | 4日 | 6月議会開会（～17日） |
| 10日 | 全員協議会 | 6日 | 住基ネット学習会 |
| 17日 | 駅周辺再開発等特別委員会 | 9日 | 一般質問 |
| 19日 | 都市開発公社評議員会 | 11日 | 建設環境委員会 |
| 21日 | DV防止法シンポジウム | 14日 | 駅周辺再開発等特別委員会 |
| 27日 | 都市計画審議会（～24日） | 17日 | 本会議 |
| 28日 | 下保谷図書館移転説明会 | 26日 | 日の丸君が代市民集会 |